

氏 名 : 安 川 澄 子  
学 位 の 種 類 : 博 士 ( 健 康 科 学 )  
学 位 記 番 号 : 研 博 第 23 号  
学 位 記 授 与 年 月 日 : 平 成 26 年 3 月 19 日  
学 位 授 与 の 要 件 : 学 位 規 則 第 4 条 1 号 該 当  
論 文 題 目 : 出 産 前 後 に お け る 母 親 の 食 知 識 ・ 食 行 動 お よ び 生 活 習 慣 に 関  
する 研究  
論 文 審 査 委 員 : 主 査 吉 池 信 男  
副 査 藤 田 修 三  
副 査 吉 岡 美 子

## 論 文 内 容 の 要 旨

### I はじめに

妊娠期における母親の栄養は、妊婦自身および胎児の栄養状態に関わり、その後における授乳期や離乳期・幼児期、ひいては成人後の健康状態に影響を及ぼす。そこで、出産前後における母親の食知識・食行動並びに生活習慣の変化や特徴、背景要因を検討し、どの時点での教育的支援が効果的であるか、また、初産婦と経産婦における違いを明らかにすることを目的とした。

### II 研究方法と対象

北海道 Y 町の妊婦および母親を対象に、自記式質問紙調査を行った。2010 年 5 月から 2011 年 4 月まで、各観察時点において横断調査を行った。その後、この期間に妊娠届けを提出した者を対象として、2012 年 4 月まで追跡を行い、縦断調査を行った。

### III 結果

2010 年 5 月から 2011 年 4 月まで横断調査を行い、妊娠届けを提出した母親 163 名のうち 123 名（有効回答率 75.5%）を対象として、3 ヶ月健診時まで追跡を行った。その結果、

追跡者 99 名(追跡率 80.5%)であり、内訳は初産婦 44 名、経産婦 55 名であった。食知識としての食事バランスガイドの認知度は、妊娠期に対して 3 ヶ月健診時で高くなった。食事バランスの改善に関わる食行動変容は、前熟考期、熟考期、実行期の者の割合が低くなり、準備期と維持期の者の割合が高くなった。飲酒・喫煙習慣は、妊娠期と比べると 3 ヶ月健診で高くなり、約 2 割の者が飲酒、喫煙を行っていた。欠食者の割合は 3 ヶ月健診時で高く、特に、初産婦で高くなった。食生活満足度は妊娠期に比べて、3 ヶ月健診時で高かった。特に、経産婦では妊娠期および 3 ヶ月健診時で高かった。

#### IV 考察

母親の食知識・食行動および生活習慣は、出産前と出産後では大きな変化がみられた。これらの事から、妊娠期を食行動変容の機会と捉えて、妊娠期間中に適切な教育的支援（教育・指導）を行う事が重要であり、また、子育て期に向けて継続的な関わりを持つ必要があると考える。初産婦と経産婦においては、食知識、食行動、飲酒・喫煙習慣、欠食、食生活満足度の変化に違いがみられたことから、それぞれの特徴を考慮した支援（教育・指導）が必要であることが示唆された。

## 論文審査結果の要旨

妊娠期から乳幼児期の「1000 日間」の栄養は、生涯の健康を決定づける極めて重要な因子であるが、ヒトを対象とした縦断的疫学研究は十分ではない。本論文は、北海道 Y 町における妊婦全数を対象に、妊娠届け時から 3 歳児健診時まで追跡するコホート調査の初期データを解析し、横断的観察データ及び 3 ヶ月健診時までの縦断的データに関して、それぞれ解析を行ったものである。各観察時点における変化パターンやその背景要因について注意深く分析がなされ、どの時期における教育的支援が望ましいかについて考察がなされている。新規性の高い発見は得られていないが、わが国において類似の調査結果は紀要レベルでの報告がほとんどであり、本論文のコアデータが栄養学及び公衆衛生学の専門誌に受理・掲載され、他の研究者や実践者に一定の質が担保された上で成果が還元されたこと

は評価できる。

以上のことから当該論文は、博士（健康科学）の学位授与に値すると考える。